

信州P-TECH（ものづくり長野県における、地元企業との連携によるDX人材育成） について（P-TECH：Pathways in Technology Early College High Schools：IBMが米国で始めた5年間の教育モデル）

1 概要

産業界が必要とするDX人材を育成するため、地元企業の支援のもと、高等学校・工科短大で学ぶ5年間の教育モデル「信州P-TECH」に取り組みます。

2 プログラムの実施内容

高校・短大での課程に加え、

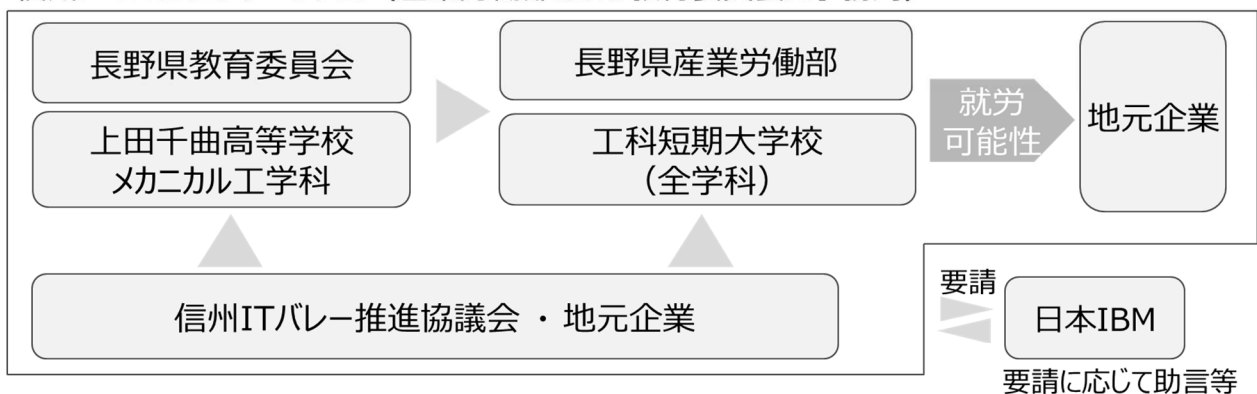
- ・地元企業による技術講習やインターンシップ、課題解決等の体験を通じて、デジタル技術を活用して社会で活躍することへの動機づけを行います。
 - ・地元企業の社員が、生徒の興味・関心・学び方などに助言者（メンター）として5年間を通じて伴走し、生徒の成長を支えます。
- この取り組みを通じて、デジタル技術を活用して顧客や地域社会に付加価値を与えられる人材の育成を目指します。

3 期待される効果

- ・ものづくりの技術を有したDX人材を早期に育成し、地元企業との連携により郷学郷就を促進します。
- ・高校3年間に高度専門性の2年間を加えたコースとして、教育の多様化にも寄与します。
- ・産学官で、育成したい人材像をリアルタイムに共有します。

信州P-TECHを推進するため、信州P-TECHコンソーシアムを設置します

信州P-TECHコンソーシアム（産業労働部および教育委員会に事務局）



- ・他県のP-TECHのコンソーシアム参加企業である日本IBMとも連携し、積極的に情報交換や収集を行い、事業を推進します。
- ・事業の状況を踏まえ、参加高校の拡大も検討します。

